

第 1 1 回 地域経済建設委員会

令和6年8月9日（金） 5階 第1委員会室	開会 13 時 30 分 閉会 14 時 29 分
--------------------------	------------------------------

午後1時30分 開会

○委員長（渡邊康弘君）

それでは、皆さんおそろいですので、令和6年第11回地域経済建設委員会を進めていきたいと思います。

まずもって、視察、お疲れさまでした。皆様のおかげですばらしい視察になったかと思っております。

本日はそちらに件に関しても、皆さんから意見をいただきながら、その先につなげていけたらと思っておりますので、お願いいたします。

それでは、ただ今から、令和6年第11回地域経済建設委員会を開会いたします。

○委員長（渡邊康弘君）

それでは、議題に入ります。

初めに、議題1、令和6年委員会視察（千葉県松戸市、千葉県鴨川市）各委員からの視察報告を議題といたします。

まずは「ひがまつテラス」から各委員の意見を聞いていきたいと思います。

それでは、順番に意見の発表をお願いいたします。

まず、1番 福永泰子君からお願いします。

○1番（福永泰子君）

ひがまつテラスの視察に関しましては、人口数とか財政、特にあそこは今、人口が増えてるという状態で、同じような事業展開っていうのは難しいかと思いましたが、ただ、未来の子どもたちに残したい町の一部として、そういった複合施設、瑞浪市で施設を建設する上では、同じく子どもたちのための施設ということを考えると、松戸市で行われた子どもモニター、そういったもの。

今回、うちの委員会でもアンケートって取ってますけど、それとまた別に、子どもに特化した子どもモニターっていうものの採用っていうのは、非常に瑞浪市にとっても有効であるのではないかなと考えました。

そして、愛称についても、やっぱり市民の方につけていただくと、施設に対する愛着っていうのが高まると思うので、そういったことも検討していく必要があるのかなと。

あとは、私たちは結構、自動車社会的なことをすごく思ってたので、駐車場っていうことばかり考えてましたが、よく考えてみれば、子どもたちに使ってほしいと思うならば、駐輪場の整備っていうのも、駅前の駐輪場の現状も含めて整備を考えていかなきゃいけないのかなということも思

いました。

以上です。

○委員長（渡邊康弘君）

続きまして、2番 大久保京子君。

○2番（大久保京子君）

読ませていただきます。

東松戸複合施設「ひがまつテラス」なんですけど、松戸市東部地域は駅周辺の開発などに伴い、人口が急増しているエリアであることから、東松戸駅より徒歩約4分のところに、利用者の利便性の向上を図るために、公共サービス機能を集約した複合施設を建設することに至ったということをお願いしました。

だからそこが違うのが、さっきもおっしゃったけど、うちでは延床面積を30%削減しての複合公共施設というものなんですけど、あちらもどんどん人口が増えてるということで、もう施設の延床面積に関しては、逆に増加するというか、広くなるような施設の建設ということでもあります。

ちょっと細くなるんですけど、施設は1階が図書館で、2階が支所と青少年クラブ。

図書館の施設の一つに、子ども読書通帳機っていうのがあって、これが小学生以下を対象としたものなんだけど、もうまさに金融機関の通帳のような形で、その子の読書履歴を目に見える形にするっていうことで、利用する子どもの読書意欲の促進につなげることができる設備であるなど、これいいものだなって思いました。

それから、青少年クラブのほうは、中高生の世代が無料で利用できると。安心・安全な居場所になっていると。機能についても、最近のダンス練習などが気兼ねなくできる多目的室や、防音性を備えて、そこには市が設置したドラムセットとかキーボードなんかを用意してある音楽室であったり、集中して学習できる仕切り席やカウンター席を備えた個別学習室であったり、可動の間仕切りで空間を様々な活用できるコミュニティースペースなどが整備されていて、非常に利便性が高い空間が設置されているなど。

それと一つ、青少年プラザの休館日についても、学生に多く活用してほしいということから、毎月第3月曜日である月1回が休館日であるっていうことも言われてました。

松戸市には、さっき福永委員もおっしゃってましたけど、子どもモニター制度っていうのがあって、これが何と昭和49年度からあるということで、市政に対する要望とか意見を子どもの目線で見た、捉えたことを市政に反映させるということで、これが、任期が1年間で、市長が委嘱するということです。

そこでやっぱり主権者教育っていうのは近年すごく低学年の子とかに必要だっていうことが言われてて、これを50年も前からやってみえることにすごい注目しました。

少子高齢化、人口減少化の現代社会において、子どもの頃から国や社会の問題を自分の問題として捉えて、自ら判断し、行動していく主権者の育成というのは、本当にこの国の最大の課題と考えますので、これは委員会として、本市へ制度の導入というのも、提言とか要望とかできたらいいな

と考えました。

以上です。

○委員長（渡邊康弘君）

ありがとうございます。

続きまして、3番 加藤輔之君。お願いいたします。

○3番（加藤輔之君）

松戸市の場合は、瑞浪駅北開発の参考っていうことを前提に行ってきました。

人口49万人、財政規模が、一般会計1,850億円という背景があるということで、そういう点では全く規模が違うということを念頭に。

あとは、人口が急増しておると。また、人集めのための企画みたいなものは必要ないということで、青少年に力が入ったものだというふうに思ったんですけど。

特に、私はあそこがスターバックスや蔦屋について検討したやろうかっていうのが一番興味を持つったわけやけど、その辺も全く、そういう感というのはなかったっていうこと、机上にも上がらなかったということ。

また一部、飲食等の要望もあったけども、対象にならなかったというようなことで、参考にならない。ならなんだというよりも、あれほど大きな町で交流人口に困らないっていうことでは、スターバックスの存在でわざわざ人を集める必要がないということかなと。

それから、そういう意味で、居場所づくりに非常に貢献しておるということで、集まってきとる子どもたちの顔を見ると、みんな真面目そうで、利口そうな子ばかりやという、きちとやとるで驚いたけど。

その中で、勉強する場にきちとなつとると思うんです。サイレントルームなんかは、非常に有効に使っておって、置かれとる中で16人の中高生が勉強しとって、そのうち4人が寝とったので、どういうわけやなと思っってその後に聞いたけど、1時間30分以内なら自由っていうことで、ちょっと私の認識が違うかもしれんけども、自由な中であの場所がきちとした居場所になつとるということで、大変羨ましいなと。

だから、そういう点で、この図書館の参考になるサイレントルームやとか、ダンスルーム、アダルトコーナー等、また、音響対策、音楽室みたいなものも、どこまでできるかは別として、ああいふものは非常に中高生に対しては魅力ある施設になるんだろうなということを感じてきました。

以上です。

○委員長（渡邊康弘君）

はい、ありがとうございます。

続きまして、7番 棚町 潤君。

まとめてくださっても大丈夫ですので。

○7番（棚町 潤君）

ありがとうございます。大まかには皆さんにお話しいただいたので、出なかった意見としては、

やっぱり議会の予算、債務負担行為を先にしたっていうところが、僕は興味を引かれたんですけど、平成30年度以降、7年間で11億1,776万円という予算を執行部側が出したんですが、公募型プロポーザルの審査の参加者が1社のみであったことと、あと、ランニングコストが債務負担行為に含まれてないことを理由に、その債務負担を消して、予算審査を行ったところが、やっぱり興味深かったです。

中の構成を見ると、公明党さんが10名で、保守系としてはそこまでまとまった会派はなかったかなと思う中で、僕が外から見た感じでは、正しい評価をされたのかなと思いながら、そのときの経緯なんかをもうちょっと深く聞いたかったと思いながらも、なかなかかゆいところに触るのもどうかと思って、思い切り聞けなかったところも実際あるんですけど。

そういう決断を議会で行っているというところが評価できる場所だったかなと思いました。

あとは、子どもたちが楽しく過ごせるサードプレイスになっているというのを感じましたし、不登校児童なんかも来てたような気がしたので、そういうのは、なんか不登校だけをこう固める施設なんかよりも、何かそういうオープンな感じのほうがいいのかなとか、いろいろ考えながらいたところですけど。

まあ、そういった施設も駅北にあってもいいのかもしれないなと思ったところです。

皆さん、これおっしゃったのですが、子どもモニターはやっぱり秀逸かなと思って、瑞浪市にはミライ創ろまい課がありますので、そういったところを拡充するとか、もうちょっとそこに違う人も参加しながら、若い人の意見をちゃんと吸い上げて、本当の意味で子どもたちに残せる町になるようにしていただけるとうれしいなと思って帰ってきました。

以上です。

○委員長（渡邊康弘君）

ありがとうございます。

それでは、6番 三輪田幸泰君。お願いいたします。

○6番（三輪田幸泰君）

皆さん、おっしゃったことと、ほぼ一緒なんですけど、私が思ったのは、図書館は利用者いなくて、中だけ見させてもらったんですけど、入り口を入ったときの配置展開ですね。今はやりの本がずらっと右手、左手のほうに、幼児が読むような絵本で、幼児が興味を引くような引き方で、孫子に向けて作りが上手に作ってある、あと、若者に向けても上手に作ってあるなというのが第一印象でした。

支所は5万人エリアの支所であったが、ゆったりとした間の作りであって、よかったぐらいじゃないです。

私は青少年プラザは、皆さんおっしゃったように、中学校から22歳までの利用者の施設であって、夏休みでありましたので、にぎわいがあってとてもよかったと。こういう施設はやっぱりそれを反映させとるっていう運営もすごいなって思ったところで。

あと、それこそ皆さん、本当におっしゃったのが、子どもモニターの意見を部屋割りに展開され

たということで、松戸市の子どもモニターは、皆さんおっしゃいましたけど、昭和49年から50年続いて動いておる制度でありまして、その意見を取り入れて、卓球スペースが作られたっていうことを聞いたときに、やっぱり子どものことを考えて、子どもが使いやすい施設っていうことが年頭にあれば、子どもの意見を聞いておいでだっていうのが、子どもを思っている姿勢で運営されてるのかなって思ったところです。

あと、その支援の活用ということで、今、私らのアンケート、それぞれ取っておるんですけど、これもやっぱり、子どもにはなかなか取れんですけど、若い世代の人の意見を聞くということに関しては、子どもモニターには及びませんが、丁寧に進めていってもらいたいなって思っております。

あと、ちょっと余談なんですけど、話の途中でこのポロシャツの話が出まして、ちょっと自慢気に「これはビームスですよ」って自慢したところ、やはり担当の女性の方々が、「ビームスとのネットワークが構築できてすごいですね」って褒めていただきましたので、次の鴨川のほうなんですけれど、そういうビッグネームとのつながりっていうのが一つのきっかけだと思います。

向こうの担当者が若い方でしたので、ビームスっていうのは私とは認識が違いますけれど、そこら辺を羨ましがられた。そこら辺うちの執行部の手柄になっと思うんですけど、そこら辺やっぱり今後研究していつてやっていくと、ビッグネームにすぎるっていうのも一つの手法かなって思っております。

上手にやればいいのかっていうことを思いました。

○委員長（渡邊康弘君）

ありがとうございます。

それでは、5番 奥村一仁君。お願いします。

○5番（奥村一仁君）

皆さんと一緒に、利用者を各名簿で見せてもらったんですけども、ほぼ小中学生でした。夏休みだから多いのかなということで、休み期間外の平日の利用状況を聞いたところ、乳幼児、親子等を対象とした講座があるっていうことでした。

あと、棚町委員もおっしゃってましたが、不登校の居場所となっているのは、かなりいい施設という証拠だと思いました。

はい、以上です。

○委員長（渡邊康弘君）

ありがとうございます。

それでは、4番 榛葉利広君。お願いします。

○4番（榛葉利広君）

まず、入らせていただいて、規模が今、うちが予定しておるのと大体同じようなレベルかな。まあ、駐車場はあそこはなかったんですけど、と思いました。違うのは、ホールというものがない。大体、規模として、うちが考えるのと一緒にかなと思いました。

とは言っても、平成28年にサウンディング調査が行われたけれども、結果が出ずに、そのトークイベントをやったり、交通の考慮や市民の憩いの場にしてほしいなどの要望をしっかりと取り込んで、さっきの子どもモニターっていう話もありましたけども、そういう話も聞いた上で進められたということで、やっぱり丁寧に要望を聞いていくっていうのは大事やし、今回、うちもアンケートというかね、調査はしてますけど、そういう点も生かされて、よりよいものになるといいのかなと思っております。

○委員長（渡邊康弘君）

ありがとうございます。

私も委員として意見を述べさせていただきます。

今回の視察、ひがまつテラスにつきましては、本当に思いが詰まった施設だなっていうのを感じていました。

特に説明の前段階でありました、保育施設の整備は待機児童ゼロということで、その先の小1の壁があるということもちょっと触れられてる中で、こういった現状が絡んでくるっていうのを言葉の中から感じさせていただきました。

棚町委員や榛葉委員の意見もありましたけど、計画段階から開発まで紆余曲折がありながらも、本当に市民や議会からの意見をしっかりと傾聴して、施設の集約化が行われた施設だなと感じております。

特にすばらしかったなと思ったのは、主として課題となっていた中高生、また、小学生の居場所確保のためにこの3施設の集約化にこれから取り組んでいるということです。

この中でも、施設を見ていただいて分かったと思うんですけども、本当に子育てバリアフリーとか、ユニバーサルデザインというところの視点をしっかりと取り入れられた上で、一つ一つの配置がなされていると。

あと、図書館も、にぎやかだけど、中が静かなものというのではなく、本当に居場所という感覚で、静かに勉強される方は奥に部屋がありますよという、今までの旧式な図書館のイメージではなく、これからの図書館のイメージっていうところがはっきり見えたのかなと感じておりました。

一番多く意見が出ていたところもあるんですけど、本当に青少年プラザ、中高生の居場所っていうところ、実際、説明の中では小中学生であったりとか、また、保護者の方と子どもが一緒に来たりとか、そういったところになってますよ、不登校の子も来られますよということで、居場所という形でなっているんだなというのを強く感じました。

これっていうのは、やっぱり子どもモニター制度っていうのもありますし、これらの施設ができてからも小中学生で、有志でそういった子どもたちの意見を取り入れて、施設の備品の配置であったりとか、イベントに反映してるということでしたので、運営というところの部分でも、こういったような市民意見を、また利用される子どもや利用者の意見を取り入れる方法を導入していただければなと感じております。

貸施設という部分から見ると、防音スタジオだったりとか、ガラス張りのあるフロアっていうの

も、本当に空きがないぐらい利用があるよということでしたので、うちらもアンケートをしていく中で、そういった意見をしっかりと聞き入れていきながら、しっかりとどんな貸室がいいんじゃないかっていうところをちょっと加える点には、委員の皆さんからも同じような意見も過去にありましたので、それもあるんじゃないかなと感じております。

以上です。

これで皆さんの意見が出そろいました。

ほかの委員の意見に対して、何か聞いておきたいよってというのは。

はい。

○3番（加藤輔之君）

不登校の子が来ていたか。

○7番（棚町 潤君）

平日の日中の利用状況っていうのを確認させてもらったときに、午前中は乳幼児の親子だったり、不登校のお子さんだったり、あと、松戸南高校の生徒さん、3部制らしいんですけど、そういう方が利用されているという。そういう方が共存して使われてるっていうのが、ある意味驚きやったなという。

○3番（加藤輔之君）

平日の午前中か。

○7番（棚町 潤君）

はい。

○委員長（渡邊康弘君）

ほかに質問はありますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

じゃあ、皆さんのところで意見をまとめさせていただくと、松戸市子どもモニターというのは、しっかりと政策を市に提案していただきたいというところ、また、駐輪場の整備、子ども読書通帳機能であったり、そういった機能の配慮があればというところ。

あとは、サードプレイスとなるように、お子さんであったりとか、不登校の子であったりとか、保護者であったりとか、みんなそういった方が使いやすい機能になるように、しっかりと意見を傾聴していく必要があるっていうところが、大筋として皆さんの意見で感じられるところなのかなと感じております。

議会からも本当にしっかりと意見を言っていないといけないっていうのは、棚町委員の意見もありましたが、ちゃんと質問していただけたかなと思っております。

ですので、今後、事業が進んでいく中で、意見を言うべきタイミングで誰かしっかりと意見を言ってもらって、言っていけるような委員会であればと思いますので、お願いいたします。

今、皆さんから言っていた子どもモニターであったりとか、駐輪場、通帳、また、サードプレイスの部分ですね。あとは魅力的な配置展開であったりとか、それから、不登校の子の居場所、

そういった部分も文言を踏まえながら、視察報告をまとめさせていただきたいと思いますが、どうでしょうか。

まとめた資料に関しましては、後日、視察資料を完成させる前に皆さんに共有して確認した上で視察資料とさせていただく予定です。

よろしいですか。

それでは、里のMU J I みんなみの里の視察報告に移りたいと思います。

福永委員から、また、よろしくお願いします。

○1 番（福永泰子君）

里のMU J I みんなみの里が、委員長も言ってみえましたが、あそこは道の駅ではないです。がってということで、私も道の駅の構想という目線で見ちゃったので、本当に広い目で見なきゃいけないのだったのかっていうのを反省はしているんですけども。

やっぱり一番の驚きは、良品計画に一通の手紙を送ったところから始まったってということで、こちらがこうしたいと思って、そういう企業を探したっていうよりも、思いが届いたっていうことが、すごいなって思って見えました。

瑞浪が今度、道の駅を作られるそばに、きなあつ瑞浪があるってということで、道の駅のイメージとして産直所というのがどうしてもあるので、市民の方もそのイメージがすごく強い中で、すみ分けみたいなものも考えていかなきゃいけないのかなと、すごく思っていました。

すみ分けとか以前に、もうちょっと産直所としてあそこは、ただ野菜を置くっていうだけじゃなくて、いかに農家の方が野菜を作ってくれるかっていうことに結構視点を置いてて、買取り制度で、しかも買いたくくんじゃなくて、安心して、ここで、これで買うので作ってくださいねっていう、結構安心して野菜が作れるっていうのが、その関係性がすごいなと思ったので、そういったところとか。

なので、包括的に、ただ野菜を売る場所というだけではなくて、一緒に考えていく、一緒に作っていくっていうのが、瑞浪市においては、それは市なのかっていうと、ちょっとまた違うと思うので、民間のきなあつ瑞浪とか、J Aがするのかなとは思いますが、そういったこと、包括的に問題を解決していくと、いろいろ道が見つかるのかなっていうことをすごく感じました。

さっき、最初に言いましたが、一通の手紙から始まることがあるってということで、今までこんなことなかったからとか、今まではやってなかったら、どうせ駄目だろうっていう、そういう思い込みではなくて、取りあえずやってみたら何とかなるのかもみたいな、一步を踏み出してみるのも大切なみたいなのをちょっと感じていました。

○委員長（渡邊康弘君）

ありがとうございます。

それでは、2 番 大久保京子君。お願いします。

○2 番（大久保京子君）

同じようなことなんですけれども、株式会社良品計画から、一番最初にその経緯を説明されたこ

とで、平成26年から里山トラスト活動が開始されて、それで地域活性化に関する協定を締結されてっていう形からスタートして、総合交流ターミナルの指定管理者に応募されて、指定管理者になったという経緯がすごいよく理解できたなと思って、いい説明をしていただいたなと思っておりました。

今現在は、指定管理2期目ということで、令和5年から令和10年3月31日までということで協定書を締結されていて、里のMUJIみんなみの里の良品計画の活動内容ってというのが、本当に様々な波及されてるってというのがすごいすばらしいなと思いました。

例えば、さっきも話されたけど、地域産品、もともと地域の産品であるお米「プリンセスサリー」というのを市内の5つの農協の方へ、全量買取りってのを前提に委託栽培して、その結果、商品の付加価値も上がるし、農家さんも農業収入をしっかりと増加することができるっていう、そういう事業をされてるっていうことだったりとか。

様々な地域の方へのサービスを、一つは図書館との連携で、読み聞かせを開催したりとか、様々な地域の方との、団体との連携を主に取って、いろんな事業の開発をされてるってというのが、そういうことをしていただける事業者が瑞浪に来てくれたらいいなと思いましたね。

本当に、これを見れば、瑞浪も一緒懸命やってたんだけど、これまで以上に瑞浪の魅力の発掘をどのように掘り起こしてきて、付加価値の構築や地域産品の魅力的開発などを推進していくかということを考えると、こういう団体、事業の力とか、お知恵をおかりするとか、本当に強く願った視察でした。

以上です。

○委員長（渡邊康弘君）

はい、ありがとうございます。

続きまして、3番 加藤輔之君。お願いします。

○3番（加藤輔之君）

私はまず、良品計画が、あそこの鴨川市に惚れたなと思って、そこが一番感心したところなんです。

もう一つは、もともと、良品計画というのは、無農薬野菜やとか、そういう非常に自然を大事にする、もうそういう団体なんで、非常に手間暇かかる、あんまり勘定に合わないことも積極的にやってくれる、そういうとこだというふうに思っております。

さっき大久保委員が言ったのとちょっとダブるけども、あそこの地方産米か。地元の米を使って、それを使って、日本酒とジンを作ったと。それから、鴨川の価値ある米として、自前の特徴を持つ米「プリンセスサリー」という米を作った。

これは昔からあったわけじゃない。途中からできてきたもので、そういうものの開発にすごく一生懸命になってくれたってということで、売上げが5,814億円、店舗数が1,251アール、従業員が2万人という一つの大企業になって、ここで一生懸命作った商品開発を全国ネットで流しておると。

それで、ここのホームページを見ると、一番初めにこの酒とジンと米が売っとる。ということで、

力を入れてやっとなってくれるなという、そういう背景があるのかなというふうに私は勝手に判断したんですけど。

そういったことで、結論として羨ましい限りの成功事例であったというふうに思いますけど、これどういうふうに、ほんだら参考にしていくかということで、難しいけども、とにかく後発でも米作りに成功したとか、地元のお酒を作ったという、そういう点では、まんざらでもないなというふうに思いました。

以上です。

○委員長（渡邊康弘君）

はい、ありがとうございます。

それでは、7番 棚町 潤君。お願いします。

○7番（棚町 潤君）

先ほどから僕、お金の話ばかり。やっぱり今回もお金の話を。

指定管理料がやっぱり驚きだったなと思ってまして、指定管理料1,100万円です。その上で、無印からは800万円の家賃をいただいていると。そうすると、差し引きすると300万円の支出でこれだけの効果が出てるとい、なかなかこれはすごいなと思ったんです。

本市の指定管理料っていうのは、残念ながら、頑張ってもあまり利益が出にくいような制度になって、ただ、この鴨川市は無印が利益を上げれば上げるほど、無印に入ってきますし、指定管理料が減らされるっていうこともないっていうことなので、儲かった分はやっぱり無印の利益になるというところが、やっぱりうちとしても考えるべきところかなと思いました。

そういう制度じゃなきゃ、やっぱり民間企業はやらないですよ。サボることも民間企業は上手なんで、それも含めてやっぱり考えてもらいたい。やや経費かけないほうがいいわけですから、普通に考えれば。サボることも上手なんですよ。

なので、そういうところは指定管理料については考えさせられたところでした。そのおかげもあって、飲食店の500円割引なんかも、無印の持ち出しだったりして、ああ、これはなかなか瑞浪市では、もう本当に羨ましいなと思ったところです。

僕は福永委員と違って、きなあつ瑞浪にお願いできんかなと思って。道の駅じゃなく、出荷者。

無印としては地域の課題を解決するっていうのを結構、会社の主眼として持ってみえるという話だったので、ダメ元でもいいんで、ハガキを送るのもいいかなと正直思います。

○委員長（渡邊康弘君）

はい、ありがとうございます。

それでは、6番 三輪田幸泰君。お願いします。

○6番（三輪田幸泰君）

私も皆さんおっしゃってることとほぼ同じようなことなんですけど、良品生活の太いパイプがあって、私も最初は羨ましいとしか感じませんでしたけれど、担当者のこぼれ話から、接点は一通の手紙からであるという、そういう「本当、えっ」というようなお話でしたので、とても羨ましく思う

など。

あと、良品生活が資本主義じゃないっていうのと、地域貢献を絡めて、先進的な動きをされておる、地域の地域力の手伝いをされてる姿勢っていうのは、やはり瑞浪としても、そこら辺は研究していかなければいけないかなって思ったところです。

あと、支援の活用なんですけど、やはり今度できるだろう道の駅と絡めて、これは大きな意味での地域活性事業とひもづけするのであれば、私は去年かおとし、会派で道の駅を見てきたときに、そのときも成功例みたいなのを見てきたんですけど、やはりそこで運営委員さん、プレーヤーと言っておりましたけれど、担ってくれる人の選任というか、そこら辺の人を決めて進めなければ、やはりこれも何も始まらないということで。

先ほどの一通の手紙っていう方が、やはり一つのきっかけとなって、軸となる人に責任を押しつけるっていうのはなかなか難しい話になってしまうか分かりますけど、やっぱり箱だけ作ってというような行政も今あり得る話ですので、担ってくれる人っていうのを十二分に発掘してやっていただかないと、どれを作っても、箱を作っても、動かしてくれる人っていうのは瑞浪としては、当然、協力してやっていかんとこういうものは続かないのではないだろうかっていうのは一つ思います。

○委員長（渡邊康弘君）

はい、ありがとうございます。

それでは、5番 奥村一仁君。お願いします。

○5番（奥村一仁君）

地域資源を活用して社会課題の解決に取り組んでいるとか、これをするによって、移住定住にも寄与しているということをおっしゃってました。そういうことをしてくれる民間事業者がいるっていうのは、本当にありがたいことだなと思いました。

一番印象に残ったのは、やっぱり、棚町委員もおっしゃってましたけど、指定管理の部分です。指定管理の制度っていうのは、ここが取ってる制度が本来あるべき姿だと思うので、ここっていうのは、里のMUJI みんなみの里のところですけど、本市の制度についてはちょっともう一回見直すべきかなと思いました。

この施設をそのまま道の駅に持ってくることはできないですが、一番いいのは、きなあつ瑞浪の運営してる方に、視察に行ってもらうのが一番いいんじゃないかと思って見てました。

○委員長（渡邊康弘君）

ありがとうございます。

それでは、4番 榛葉利広君。お願いいたします。

○4番（榛葉利広君）

ここを見ると非常に羨ましいというか、あれだけの地域に無印良品のものを買えるところが、おしゃれなレストランがあつて、カフェもあつて、本当に羨ましいとは思いますが、きっかけは、皆さん言つとるように、NPO法人の人やつたね、林さんとか言つたっけ。

多分、あの方が無印の会長に手紙を送ったことから始まってっていうことで、ほとんどそうなん

ですけど、一人の方がおることによって大きく物事が動くので、ということは非常に感じました。

瑞浪市に関しても今、プロジェクトが進んで、日本ガイシから2,000万円の企業版ふるさと納税をいただいて、大学の教授が来てやってるんですよね。あれでもちょっと似たような感じというか、無印良品さんもこれ、企業版ふるさと納税やっとなるような感じなんですよ。例の指定管理料も格安っていうのもあるので、そういう雰囲気なのかなって僕は思いました。

ということは、瑞浪市も若干、チャンスがある可能性があるんで、日本ガイシさんも何か植林活動か何かがかきかけで手を挙げられたということなんで、こういうことがうまくつながっていくといいかなっていうふうには思いました。

なかなか、ただ、指令管理者を募集して無印が来るかっていう問題ではないので、難しいなと思いますけど、そういう感想です。

○委員長（渡邊康弘君）

はい、ありがとうございます。

それでは、私個人の感想とさせていただきます。

本当に皆さんの意見もあり、人とのつながりから、もうトップダウン、社長が、会長が、誰か行く人がいないかっていうところから、そこに行くって言ってくれた人がいることが大きなところで、そこからつながりがあって、ここまでつながってるなっていうのは、非常に素晴らしいことだなっていうのを感じてます。

民間企業にも現地にも熱い人がいないと、これがつながっていかないのかなっていうのはすごい感じました。

本当に指定管理者を探すとかそういう段階ではなく、地域の課題を解消する段階から協力者となる企業を探して、関係を築いていく必要があると。

これ無印さんだけではなく、今、榛葉委員も言ったように、いろいろな民間企業との連携が非常に重要になってくるんじゃないかなとも感じてます。

その中で、市や地域と一緒に熱い気持ちを持って示していく必要があるとは感じてます。

また、議会としても、指定管理者が入ってくる際に、地元企業や地元団体との間に入って話をしましたよっていうのを言って、議会としての反応はどうですかって聞いたときに、そういうことを言われてました。

やっぱりそういったところで、いろんな意見がある中で、要するにバランスを取るのは、やっぱり地元の議員の役割っていうのもあるんじゃないのかなと感じております。

ただ、指定管理のこの制度っていうところが本当に、奥村委員や棚町委員がそれぞれ気にされたところで、私自身もすごいびっくりしたところなんですけど、積み上げ式で、かつ、利益を上げてもやらないというそのやり方なので、もともと、きなあつ瑞浪も含め、また新しい道の駅も独立財産で利益を求められるような指定管理者制度っていうのが少しずつ増えていますので、そういう管理制度的見直しも含めて考えていただければなと思っています。

以上です。

3 番 加藤輔之君。

○3 番（加藤輔之君）

無印良品で3万2,000人の人口で、10%程度はあるんやけど、採算あったとして言ったかね。

○委員長（渡邊康弘君）

ぎりぎり黒って。数店舗があることによって。

○3 番（加藤輔之君）

ぎりぎり黒か。

○委員長（渡邊康弘君）

ぎりぎり黒、指定管理とか施設利用料を払って、従業員にお金を払って、ぎりぎり黒になるという事なので、そういうところも踏まえて、岐阜市でも可児市でも無印、入ってくれたりとか、残ってくれたりしてるので、そこの事業部さんあたりとかが、瑞浪市っていいなって思ってくれたら、事業部単位、決済があるっていうことなんで、地元だけでやるっていうのはかなりハードルが高い。

岐阜大学かね、そんな意見が出とる中なので、そういうところも民間活力の有効活用っていうのは非常に重要な点であるかなと感じております。

すみません、余計なことも言っちゃって。利益が出てると。

4 番 榛葉利広君。

○4 番（榛葉利広君）

今お話があったので。たまたま私、里のMUJI みんなみの里でトイレに行ってみましたら、結構古いトイレなんですね。ちょうどその説明員に來られた市役所の方が、大分古くなったなとか言っていましたよね。

ということは、やっぱり結構ボロボロというか、かなり古くなってきた施設で、もうなかなか利用者が少ないとか、そういう建物をうまく無印がリニューアルしたっていうような雰囲気はしました。

上手にリニューアルして、可児の図書館でも、ショッピングセンターの中にボンとあるんですけど、全然ほかのショッピングセンターは大したことないです。その無印の図書館がちょうどにリニューアルして使ってますので、そういうこと。

物を大事にするっていうか、そういう精神が流れとるのかなと分かるんですけど、びっくりしました。

ぜひ可児の無印良品は、行かれた方はいると思いますけど。

無印良品と図書館。面白いなと思いました。

○委員長（渡邊康弘君）

確かに非常に面白い施設ですし、可能性のある施設です。

ほかに、ぜひこれは言っておきたいという。

○7 番（棚町潤君）

ちょっと榛葉委員に質問なんですけど、先ほどの企業版ふるさと納税の話なんですけど、無印が

鴨川市にしたってということですよ。

○4番（榛葉利広君）

いや、要するに指定管理料が安いというか、あれなんで、そういう貢献があるのかなという気がしたけど、逆か。

○委員長（渡邊康弘君）

5番 奥村一仁君。

○5番（奥村一仁君）

企業としてはショッパのほうで利益が出てるんで、正直、無印さんとしてはここが黒でも赤でもそう大した問題じゃないというか。あくまでも、この地域のためにやるよっていう、施設やと思うんで、そういう意味では、おっしゃってることはよく分かるというか、そういう考えを持ってるんじゃないですかね。

○委員長（渡邊康弘君）

4番 榛葉利広君。

○4番（榛葉利広君）

企業版ふるさと納税をやるのは、企業のイメージアップというこのほうがね、そういうことでああいいうところに進出しても、意味があったのかなっていう。感覚やね。

○3番（加藤輔之君）

今、利益が出ると。

○委員長（渡邊康弘君）

企業版ふるさと納税もいろんな企業さんがやる企業版のCSR活動っていって、地域に貢献するという活動があるんですけど、それで結構、市に30万円とか40万円で商品を寄附するっていう活動をやられてる団体も多いんですけど、今、そうじゃなくて活動で、行動で動いてやりたいものを出して終わりじゃなくてっていう活動を持たれて動く大手企業さんもある、そういう方向性に舵切りをして。

そういった観点、そもそも社訓というか、棚町委員の最初のお話の中で、皆さんが無印の社訓としてそういう考えを持って、企業に貢献、還元していこうと。あそこの里のMUJI みんなみの里も千葉県版のMUJI コーナーがあったりとか、鴨川のMUJI コーナーがあったりとかっていうところで、特色を持ってる、プラスみんなのよろず屋みたいなね。

寄ったら何でも買えるよっていうような施設もあり、さらには農業、物産で地域の農産物を7割か。鴨川。さらに千葉県内で100%を目指すぐらいの形でやられてるということでやってましたし。

非常に野菜バスの取り組みもそうですけど、地域のことを考えて、企業と連携していかにやるかっていう。地域と連携して、地域の団体と連携していかにやるかっていうことを常に考えられて、取り組んでくださってる企業さんなので、本当に指定管理先があいいうことで、大手企業さんの中でも本当に違うと思うので、こういったところがきなあった瑞浪だったりとか、道の駅の指定管理者であれば、変わるんじゃないかなって。

○7 番（棚町潤君）

野菜バスとかやってほしいですね。

○委員長（渡邊康弘君）

全ての取り組みがいろんな意味合いを持っていききましたけど、さらにそれ以上の驚きを、情報をいただけたらなっているのがあったので、本当に上手に関係性をつなげていきながら、いろんな情報交換が、担当課を巻き込んでできたらと思います。

これに対しまして、まとめていくとしましたら、指定管理者制度の部分で取り組みの仕方の部分、後は本当に地域との連携の部分っていうところが特にメインになってくるかと思います。

そういったところで、かつ、このやり方でも利益を出していけるんだよっていうところを、市としてもしっかり受け止めていただいて、指定管理を投げかける前から、きなあつ瑞浪のほうで考えていただきたいという形でまとめていけばいいかと思いますが、ちょっと難しいなと思うんですけど、そういうまとめになるのかなと。

プラスアルファ人、地域と人、熱い思いがある人がおるかどうかということになるので、そういう思いに取り組んでいただきたいという形になると思います。

そういった形でちょっとまとめさせていただこうと思いますが、よろしいでしょうか。

また、先ほどと同様に、皆さんと共有させていただきたいと思いますので、お願いいたします。

それでは、各委員からの報告は以上となります。

令和6年委員会視察（千葉県松戸市、千葉県鴨川市）各委員からの視察報告を終了といたします。

○委員長（渡邊康弘君）

次に、議題2、瑞浪美濃源氏七夕まつり「駅北地区複合公共施設アンケート」についてを議題といたします。

現在、Webアンケートが、昨日の夜の時点で25件、図書館のアンケートが、先週末に取りに行ったやつが75枚。

で、シールアンケートが全部で77ぐらいかな。68枚か、になっておりますので、本当に七夕と、あと、もうちょっと足りない部分をWebアンケートに依頼をかけたとか、行けるところまでちょっと委員の皆さんで協議をしながら、ここに行ってあげるよとか、何かいい団体があるとか、やっていただけると、500枚に行くかなという形になってきてます。

まず、七夕まつりとか、暑いですけど、2時間を勝負で数を取りたいと思っております。

ちょっと前回の反省点から、副委員長からも提案いただいて、2人体制はそのままで行くんですけど、副委員長は1人でやっていただいて、私が全体統括、全体を見ながら写真を撮ったりとか、記録を取ったりとか、もし必要であれば、各委員の方のフォローに入るといった形でやってはどうかという提案をいただいて。

前回、加藤議会事務局総務課長に来ていただいたんですけど、休みの日ですし、事務局が来ていただくということはちょっといけないかなというところで、そのような対応でしたいと思いますの

で、御理解お願いいたします。

パネルなしで500枚行けたらという感じですかね。

ちょっと大変なことなので、皆さん協力いただいて、進めていただきたいと思います。

それでは、ほかに質問はよろしいでしょうか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

ほかに質問もないようですので、質疑を終結いたします。

それでは、瑞浪美濃源氏七夕まつり「駅北地区複合公共施設アンケート」については、計画に沿って進めていきたいと思いますので、皆さん、よろしくお願いします。

議会終了後、準備というか、その辺の協力だけよろしくお願いいたします。

○委員長（渡邊康弘君）

次に、3、その他を議題といたします。

何かありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（渡邊康弘君）

別段発言もないようですので、以上をもちまして、令和6年第11回地域経済建設委員会を閉会いたします。

ご苦労様でした。

午後2時29分 閉会